

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第八主日礼拝のしおり

2022年7月31日

前奏

招きのことば：詩編 49 編 6-10, 16 節

災いのふりかかる日 わたしを追う者の悪意に囲まれるときにも
どうして恐れることがあろうか 財宝を頼みとし、富の力を誇る者を。
神に対して、人は兄弟をも贖いえない。神に身代金を払うことはできない。
魂を贖う値は高く とこしえに、払い終えることはない。
人は永遠に生きようか。墓穴を見ずにすむであろうか。|
しかし、神はわたしの魂を贖い 陰府の手から取り上げてくださる。〔セラ

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

あなたに生かされているいのちを、あなたの子どもとして、輝いて生きるように、私たちを導いてください。私たちが財産や、名誉や、自分勝手な夢の実現のために生きるのではなく、また、私たちを圧倒する重荷や試練に押しつぶされるのでもなく、すべてをあなたに委ねて、あなたから託された毎日の働きに心を籠めることができるように導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：コロサイの信徒への手紙 3章 1-11 節

さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれぬようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。だから、地上的なもの、すなわち、みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望、および貪欲を捨て去りなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。これらのことのゆえに、神の怒りは不従順な者たちに下ります。あなたがたも、以前このようなことの中にいたときには、それに従って歩んでいました。今は、そのすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい。互いこうそをついてはなりません。古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。そこには、もはや、ギリシア人とユダヤ人、割礼を受けた者と受けていない者、未開人、スキタイ人、奴隷、自由な身分の者の区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられるのです。

福音書朗読：ルカによる福音書 12章 13-21 節

群衆の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」イエスはその人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、やがて言った、『どうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、こう自分に言ってやるのだ。』「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しむ」と。』しか

し神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。』

讚美歌 166 番

- 1 イエス君は いと麗(うるわ)し あめつちの主なる 神の御子、人の子を 何にかは たとえん
- 2 春の朝 露ににおう 花より美し 秋の夜 空に澄む 月より さやけし
- 3 夏の夕 青葉わたる 風より かぐわし 冬の日に ふりつもる 雪より きよけし
- 4 イエス君は いと麗し あめつちの主こそ わが栄え わがかむり わが喜び アーメン

説教：「神の前に豊かにならなければ」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

人は神様よりも、神様が与えてくださる賜物に気を取られてしまうことが多いですね。人は皆、豊かになりたいと願います。自分には豊かさは関係ない、私には贅沢することはあまり興味はない、と思っている人でも、健康のため、教育のため、レジャーのため、社会貢献のため、老後のため、もう少しお金があれば心に余裕ができるのに、と思うことはあるでしょう。

お金がもっと欲しいという誘惑はとても大きいものです。あなどることはできません。社会では表面的に建前ではきれいな関係でも、裏の世界ではお金が人を動かしているのを見ることがあります。そこには人の弱さと、それにつけこむ人のずるさがあります。収入や財産で人の価値が決まるような錯覚があります。人と比べたり競争心が煽られたりします。

お金が悪いわけではありません。むしろ、お金がありさえすれば幸せになれる、お金で幸せが買えるという気分になることよくありません。お金さえあれば、悔しい思いをせず、人に気を遣わずに、よい暮らしができるのに、また大切な人により暮らしをさせてあげることができるのに、と悪いのはすべてお金がないからだ、という気持ちです。それとは逆に、少しお金ができると、もうこれで大丈夫だ、お金があるから安心だ、と喜ぶ気持ちにもなるでしょう。これもお金がありさえすれば幸せになる、という気持ちと通じる思いですね。

あるときイエス様のところに来た人がいて、親がなくなったのに兄弟が私に遺産の分け前をくれない、と苦情を言いました。だからイエス様から私の兄弟に話しをしていただけませんか、と頼んできました。イエス様は困ったときには祈りなさい、とお祈りを教えてくださった方です。なんでも願いがあれば父なる神様にイエス様を通してお話しができる、祈ることができることを教えてくださっていました。では果たしてイエス様は、この人が損をしないように助けてくださったのでしょうか。

もちろん、イエス様はこの人を助けてくださいました。しかし、この人が考え願っていたように助けたわけではありませんでした。この人のお話をお聞きになったうえで、この人の考え方を根本から変えるような、悔い改めにお招きになりました。

イエス様はこの人の心が貪欲であること、欲どおいしい心の奴隷となっていることを見抜かれました。遺産分与が正しくなされるべきであることは間違っていないです。兄弟のわがままを通してはならず、ただしく遺産分与がなされるべきです。ですからイエス様はこの人に、遺産を一切もらってはなりません、とか、自分の分け前はあらかじめ全部兄弟に与えなさい、と言っておられるわけではありません。正しい遺産分与がなされるよう願うなら、当時は裁判官がおり、調停人の制度があります、と言われていました。

しかしイエス様が見抜いておられたのは、この人の貪欲です。この人はイエス様のような権威のある方が諭してくださったら心の堅い兄弟でも思い直して自分にお金を渡してくれるかもしれないと期待しました。そして自分に相続する遺産が入ったら、もう、お金のことで心配したり思い煩うことから解放されるのだ、とっていました。

貪欲というのは何でしょうか。それはお金によって幸せになる、という気持ちです。貪欲は、お金がある人にもない人にも起こる気持ちです。お金に困っていて、もっとお金があったら心豊かに生きることができるのに、と思っている人なら、お金に心が縛られているということはいくもわかります。けれども反対に、私にはお金があるから心豊かに生きることができるのだ、と満足している人は、確かにお金のことで困ってはいませんが、実は、お金によって心が満たされる、心が豊かになる、と思っている点では同じ貪欲な心なのですね。

イエス様は、この人が人生とお金の関係を考え違いしていることを教えて、助けてくださいました。どんなに、有り余るほどお金があっても、人のいのちは財産によってどうにもならないことであることを教えました。物やお金の豊かさはそれ相応に大切なことですが、神の前に豊かにならなければそもそも人生の意味がわからないと教えてくださいました。ですからイエス様は、物やお金の豊かさだけを求める貪欲な心が出てきたら、それにとらわれて支配されないように、注意するようにと促しています。

神様の前で豊かになる、ということはどういうことなのでしょう。イエス様はわかりやすいたとえ話をなさいました。あるお金持ちが畑をもっていました。その年、畑が豊作でした。いつもよりもずっとたくさんの作物がとれました。けれどもこのお金持ちは神様にしかられています。なぜでしょう。畑が豊作だったということは、この人はその年たくさん働いたのでしょう。額に汗して畑の手入れやお世話をしっかりして、人の知らないたくさんの苦勞をしたのでしょう。それで畑が豊作になりました。うれしかったでしょうね。怠けたい心に打ち勝って与えられた厳しい仕事に打ち込んだのですから。神様はこの勤勉さをしかることはありません。

では何を叱られたのでしょうか。たくさんとれた農作物をしまっておくために、倉庫を大きく立て替えたことでしょうか。そうでもありません。農作物を倉に蓄えるため大きい倉を立てよう、と考えたのはよい判断です。神様が与えてくださった贈り物を無駄にしない工夫は大切です。では何を叱られたのでしょうか。

イエス様が愚かな者よ、と言われたのは、努力が実って豊作になったことや、倉を立てて蓄えたことではなく、畑の持ち主が自分の心にこう言ったからです。「さあ、これから先、何年も生きていだけの蓄えができたぞ、一休みしよう、食べたり飲んだりして楽しめ。」

愚かな者よ、と言われたのはふたつの理由です。まず、自分はまだまだ生きる、と信じていました。自分は自分の力で生きていくと勘違いしていました。ですから神様は、愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる、と言われました。この人は愚かにも、人の命は神様の御手の中にあることを覚えていませんでした。命は神様が与え、保っていてくださる、という厳粛な事実を忘れて、自分はまだまだ生きる、と、まるで神様なしで今までもこれからも普通に生きていく、と信じていました。神様の前に豊かに生きるというのは、自分の力で歩んできたのではなく、命を与える神様を見上げて歩むことです。

この人には人生を神様の前で生きるという自覚がありませんでした。私たちが目的をもって作りくださり、私たちが大切に私たちがとの交わりを喜んでくださる神様が忘れられています。神様の方に向きを変えるように、悔い改めが迫られています。

もう一つの愚かさはこれまでお話ししてきたように、この畑の持ち主が、食べ物や財産に困ることがないことが幸せ、と考えていたことでした。自分のために富を十分蓄えたら、もう何も心配ない、働かなくても休めばいい、楽しんで生きていったらいい、と安心したことです。これは、財産を十分もっていない私たちには理解できない心境かもしれません。しかし、この人は財産があるから幸せ、という思いです。イエス様が愚かな者よ、と言われたのは、財産を持っているから愚かなのではなく、財産を持っていなくても、財産によって人は幸せになる、と考える人です。私たちは知らず知らずのうちにイエス様がおっしゃるような貪欲な人、愚かな人になっています。私たちがそう思っているなら、神様の方に向きを変えるように、神様の前で豊かになるように、悔い改めが迫られています。

では、イエス様がおっしゃる、神様の前で豊かな者になるというのはどんなことでしょうか。イエス様は愚かな者よ、と言って、切り捨ててしまうのではなく、質問に来た人が神様の前に富む者となってほしいと願ってこのお話をされました。

神様の前、というのはどういうことでしょうか。神様の前で生きる、というのは、神様と私の関係のなかで命を受け止めるということです。神様と私はどのような関係があるのでしょうか。神様の前で豊かなものというのは、神様が私のために恵みあふれる方だと信じて、神様の子どもとして神様を信頼して歩むことです。

神様は私を作ってください、今も保ってくださいます。私に必要な力、人、もの、とき、場所など、すべてを与えてくださる方です。あなたを愛して、夢も、仲間も、苦難に打ち勝つ忍耐も、敵を愛する愛も、与えてくださる方です。目に見えるお金や、人や、財産に信頼して裏切られるのではなく、神様に信頼して幸いを得るのです。私の貪欲が赦されるように、神様であるイエス様は、私のために身代わりに罪の罰を受けて死んでくださいました。そしてよみがえってくださいました。そして私に新しい、神様の前で豊かに生きる命を与えてくださいました。神様である聖霊様は、私に聖書のみ言葉と洗礼や聖餐を用いて語り続けてくださいます。私たちが神様の御前で罪深いものであることを教えます。そしてその私のためにイエス様がしてくださったことをお示しくくださいます。私を救ってくださるイエス様を、私のためのイエス様、と信じる信仰、イエス様に信頼する信仰を私の内に作ってくださいます。

神様の御前の豊かな者とされると、命は神様が握っておられることで安心します。財産のあるなしにかかわらず神様を喜びます。仕事や家事や勉強や教会の奉仕など、義務としていやいやするのではなく、使命が与えられていることを感謝して、命や財産や能力や希望を用いて、隣人とともによりよく生きるために祈りつつ励みます。思いを超えた財産が与えられていたら、それでも働く必要はない、人の役に立つために我慢して働かなくてもいい、ということではありません。与えられている祝福を感謝し、その財産が神様の託された働きのために生かされるように、賢く、愛をもって、知恵深く、大胆に用います。

神様の前に富む者となりましょう。神様はあなたに命を目的をもってお与えてくださいました。あなたに今週任された働きは何でしょうか。仕事をうまくする目的が自分の利益だったら、うまくいかないときは絶望します。また、手に負えそうにない大きな責任には圧倒されて恐れます。失敗したら恥ずかしいと思うと、はじめから逃げ口上を探して、関係のない小さなことに没頭してその場限りの達成感で満足をしよとします。でも、神様の前に富む者は、お金や財産、自分の栄光や名誉のために働きません。神様に与えられた働きが何であってもそれを光栄に思い、与えられているものを豊かに用いて、自分を鍛え、創意工夫をして、なんとか人々と共に生きて、人々と一緒によりよく幸せをつくることができるように成長します。神様をあがめ賛美します。共に生きる者を励まします。さあ、神様の前に富む者の一週間が始まります。

そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」

ルカによる福音書 12 章 15 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

讚美歌 509 番 献金 献金感謝の祈り

1 世の楽しみ 失せされ、人の誉れ 消えゆけ、身をおく里 世になしとも、

わが幸こそ イエスキミ

2 宝も名も 流るる 水の上の 月かげ、ありてなきを などかは追わん、
わが富こそ イエスキミ

3 さらば行けよ 夜の夢、朝日の陰 さしきぬ、わが迷いを さやに示す
み光こそ イエスキミ

4 いざや別れん 浮き世に いざや迎えん とこ世を、いざや迎えん
主のみむねによりて憩う その日を アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊のちからよ、あぁみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏